

ハリウッド・スターの振付を務める大物演出家マーク・ハウードの舞台芸術 伝統のアイリッシュ・ダンスに新しいスタイルを樹立した先駆者

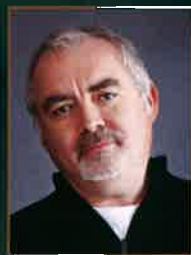
1990年、世界中の様々な舞踏・音楽の要素を集結させた「プログレッシヴ・アイリッシュ・ダンス」の思想を元にトリニティ・アイリッシュ・ダンス・カンパニーを立ち上げてから30年。それまで競技会が主な発表の場であったアイリッシュ・ダンスが、エンタテインメントの要素を伴う舞台芸術と発展し、後のリバーダンスやロード・オブ・ザ・ダンスの出現に繋がった。米テレビ界最高の榮譽とされるエミー賞を2度受賞し、自らが主宰するアカデミーからは毎年のように世界選手権で優勝するダンサーを輩出するなど、アイリッシュ・ダンス界を最前線で牽引してきたのがまさにマーク・ハウードその人。2018年の日本ツアーでは何と4つの新作も発表し、伝統のアイリッシュ・ダンスをエンタテインメント・ショーへと進化させ、さらなる可能性を無限に追求する舞台芸術家である。

2004年以来8度目となる今回の日本ツアーでは、2014年の世界チャンピオン、「アイリッシュ・ダンスの女王」アリー・ダウティが引き続き再来日するほか、今回の新作発表に大きな期待が掛かる。アイリッシュ・アメリカンの聖地シカゴから、今年もタップの嵐が吹き荒れる！

激しいタップからスピード感あふれる軽快な群舞、超絶足技が魅せる千変万化するステージ。



マーク・ハウード (芸術監督) Mark Howard, Artistic Director



アイルランド人の両親のもと、イングランドのヨークシャーに生まれる。幼少時シカゴに移住、9歳からデネヒー・アイリッシュ・ダンス・スクールに学ぶ。北米選手権優勝の後、17歳でトリニティ・アカデミー・オブ・アイリッシュ・ダンスを設立、数々の世界大会優勝を果たす。1991年「100名のアイリッシュ・アメリカン」に選出、1993年にはエミー賞を獲得。現在、トリニティの芸術監督を務めるかわら、「バックドラフト」「アメリカン・ビューティ」「ロード・トゥ・パーディション」等多くの映画、TV、舞台作品で振付を手掛ける。トム・ハンクス、ケート・ハドソン等大スターのプライベート・コーチとしても有名。

トリニティ・アイリッシュ・ダンス Trinity Irish Dance Company



1979年トリニティ・アカデミー・オブ・アイリッシュ・ダンスとしてシカゴに創設された。主宰は、著名なダンサーで振付師、舞台演出家のマーク・ハウード。1987年アイルランドで行われた世界アイリッシュ・ダンス・コンクールでアメリカの団体として初めて優勝したのを始め、現在まで実に36度世界タイトルを獲得。1990年世界のさまざまな舞踏や音楽の要素を取り入れたプログレッシヴ・アイリッシュ・ダンスを発信させるため、ソロ世界チャンピオンを含む18歳から26歳のダンサー22名、ミュージシャン、スタッフを現名称で独立設置、ワシントンD.C.のケネディ・センター、ニューヨークのジョイス・シアター、シカゴのオーディトリウム・シアター等で公演を行ってセンセーションを巻き起こす。以来、全米、欧州のツアーは常にソールド・アウトを記録、日本の鼓童、ボストン・ポップス等とも共演を行っている。

Voices 推薦の声

生命力が溢れて、人を元気にさせるステージは、
沢山の方とにかく見てほしいです！

—鈴木明子(プロフィギュアスケーター)

アイリッシュ・ダンスのルーツがこの姿。

—宮本亜門(演出家)

舞台から伝わる、信じられないほどの情熱。

—ロン・ハウード(映画監督)

伝説がベールを脱いだ！

—アイリッシュ・ダンス・マガジン

もう素晴らしかったの一言に尽きます！

—デヴィ・スカルノ(タレント)

リバーダンス、ロード・オブ・ザ・ダンスは
巨万の富を生み出したが、そのお手本は
マーク・ハウードのトリニティなのだ。

—ミルウォーキー・ジャーナル・センティネル

空飛ぶ脚

—ニューヨーク・タイムズ